

小児の事故防止へのアプローチ

—— オーストラリアのセーフティ・センターの活動について ——

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

山中 龍宏* **

要約：小児の事故防止には、いろいろなアプローチが必要となる。事故の防止活動は、具体的にわかりやすいこと、ならびに、いろいろな場でいろいろなメディアを通じて反復して行われることが大切となる。オーストラリアにおいては、小児病院に付属してセーフティ・センターが設置され、各種の活動をおこなっている。その活動の実際を紹介し、わが国においてもそのような施設の必要性を指摘した。

見出し語：事故防止、小児、セーフティ・センター、オーストラリア

はじめに

現在、0歳をのぞいた小児の死因の第1位は不慮の事故によるものであり、「事故の予防」は小児の健康に関わる最も重要な問題のひとつである。しかし、事故は数や種類が多く、また事故の内容や程度もさまざまで、効果的な事故防止活動を行うことはたいへんむずかしい。

今回、オーストラリアにおいて小児の事故防止活動を行っている施設（Safety Center）をみる機会があったので報告する。

Safety Center の概要

現在、オーストラリアには5カ所の Safety Center があり、すべて小児病院の中に設置されている。2カ所ではモデルハウスとして一軒の家屋そのものが建てられ、セーフティ・センターとなっている。

Safety Center の活動内容

Safety Center で行われている活動を列記すると、

① 印刷物による事故の情報サービス

② 電話による相談の受付

③ 安全設計された製品についての相談、展示、ならびに販売

④ 実際に起こった事故の写真や物品の展示、安全が考慮された台所の模型

⑤ 事故防止について、両親、教師、学生、保育の担当者、医療関係者などに講義、あるいはワークショップを開催

⑥ 事故防止の啓発用のカレンダーの販売

⑦ 地域保健活動への援助

⑧ 事故防止のための図書室の設置

などである。

メルボルンにある Royal Children's Hospital の Safety Center は、旧病院の1階の玄関を入ってすぐ右にある。セーフティ・センターに入ると、左側には20人前後の人を対象とした講義用のスペースがあり、右側にはいろいろな事故の実際を示したパネルが20枚くらい展示されている。パネルのコーナーの奥には実際の台所が設置されており、安全性を考えた各種の物品が展示されている。また、小児用シートベルトや各種のヘルメットも展示されている。毒性

* 焼津市立総合病院小児科 (Department of Pediatrics, Yaizu Municipal Hospital)

** 国立公衆衛生院母子保健学部 (Department of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health)

の強い植物や、毒蛇、蜂、さそりなどの標本も展示されている。

さらに、各種のポスター、パンフレット、事故防止のカレンダーなどが展示されており、一部は販売されている。また、燃えにくい処理を施した毛布などの販売も行われている。

センターの一部には、事故に関連した書籍、製品についての情報、安全法規、新聞や雑誌の事故の資料などが集められており、図書室となっている。

職員は、1名の看護婦と2名の事務員によって運営されている。ホームドクターによる健診時に、母親はセーフティ・センターを見学するようすすめられる。子どもが生後6カ月くらいになった時点で母親はセンターを訪れ、センターの見学、ならびに講義を受ける。この講義は、午前と午後の2回にわたって、1回に1時間半くらいかけて行われている。センターの見学は無料で、月曜日から金曜日まで、午前9時から午後5時のあいだに見学できる。

このセンターがカバーしている人口は、メルボルン市の30-40%くらいとのことである。また夕方には、地域で行われる会合でスタッフが小児の事故防止についての講義を行うこともある。

西オーストラリア州では、プリンセス・マーガレット小児病院の正面玄関の脇に2階建ての独立した一軒の家屋があり、ここが州の事故サーベイランスの事務所、兼セーフティ・センターとなって同様な活動を行っている。

考 察

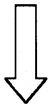
オーストラリアでは、小児を対象として、国のレベルで National Injury Surveillance and Prevention Project (NISPP) がとりあげられ、1988年からは、小児病院の救急室を主な定点として事故のサーベイランス事業が行われている。

継続的にデータを収集して分析し、その結果を Safety center の啓発活動に活用することが行われている。これらの活動により、一部では、対照群と比較して、20-30%事故の件数が

減少し、また事故の重症度も20-30%減少したことが報告されている (Dr. A. MacKellar, National Vice President CAPFA, Child Accident Prevention Foundation of Australia)。

わが国においても、全国の保健所などにセーフティ・センター、あるいは安全学習センターを設置し、健康診査などの機会を利用して小児の事故防止活動を展開することが望ましい。

その活動を支えるものとして、事故防止の指導員の養成や、各種の指導教材、たとえば指導マニュアル、パンフレット、ビデオテープ、スライド、絵本、紙芝居、事故防止の歌などの教材を充実させることも必要である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児の事故防止には、いろいろなアプローチが必要となる。事故の防止活動は、具体的でわかりやすいこと、ならびに、いろいろな場でいろいろなメディアを通じて反復して行われることが大切となる。オーストラリアにおいては、小児病院に付属してセーフティ・センターが設置され、各種の活動をおこなっている。その活動の実際を紹介し、わが国においてもそのような施設の必要性を指摘した。